

千葉市コミュニティセンターにおける室の多機能成立に関わる満足度評価項目の抽出

日大生産工（院）○古田 博一 日大生産工 山岸 輝樹
日大生産工 広田 直行

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

現在コミュニティセンターでは、利用者の多様な活動に対応するため室の兼用を行っている。しかし、室の設置機能と異なる活動は、設えや仕上げなどが利用行為に適さず、利用者にとって様々な不都合が生じていると考えられる。

そこで、本研究では利用者の満足度評価から室の多機能成立に関する知見を得ることを目的とする。

本稿はその事前調査として、満足度評価を行うための設問項目を抽出するための調査である。回答が得られた利用行為の評価項目についてまとめる。

1.2 研究の対象

千葉市のコミュニティセンター全14事例を対象とする。その中で本稿では、千葉市花見川区幕張コミュニティセンターについて記述する。調査する室については、一般住民が利用できる室のうち、予約を必要とする学習諸室の集団学習空間に着目し、その中で複数の利用行為に対応している室とする。

1.3 研究の方法

はじめに施設の管理者にヒアリング調査を行い、各室の運営方法、面積、設えや利用行為について確認する。上記で得られた情報から、対象とする諸室を決定し、利用者に事前調査アンケートを行う。アンケートの結果を集計し、諸室の満足度評価を得るにあたって有効な設問項目を抽出する。

2 利用行為の分類

既往研究『千葉市コミュニティ施設の空間特性と利用行為からみた「機能複合スペース」の

成立要件』^{※1}より、千葉市のコミュニティ施設より抽出した利用行為を分類したものを表1に示す。本研究では、この表を元に活動の分類を行う。

表 1. 利用行為の分類

分類	要素	利用行為
Ⅰ スポーツ	I-a 軽スポーツ	卓球、吹き矢、空手、輪投げ、スポーツチャンバラ、合気道、古武道
	I-b エクササイズ	健康体操、ヨガ、氣功、太極拳、体力づくり
Ⅱ 育児支援		人形劇、紙芝居、児童工作、親子リトミック
Ⅲ 学習		文芸(川柳・短歌・俳句)、文学、語学、宿土史、IT講習、研究、生活技能、同好会
Ⅳ 集会	Ⅳ-a 発表	発表会、講演会、鑑賞会、劇ミュージカル、映像編集
	Ⅳ-b 会議	会議、地域集会(子供会、老連会、町内自治会、社会福祉協議会)研修、ボランティア
Ⅴ 音楽	V-a 楽器演奏	オーケストラ、音楽(ギター、ハーモニカ、リコーダー、マンドリン、オカリナ、太正琴、三味線、太鼓)
	V-b 歌唱	民謡、コーラス、詩吟、カラオケ
Ⅵ 舞踊		社交ダンス、フラメンコ、バレエ、フラダンス、ジャズダンス、民族舞踊、スクエアダンス、日舞、盆踊り、創作タ
Ⅶ 美術・工芸	VIII-a 水	水彩画、書道、水墨画、フラワーアレンジメント、生花、壁染め
	VIII-b 陶芸・七宝	陶芸、七宝焼
	VIII-c 和	茶道、華道、着付
	VIII-d その他	和裁、手工芸、絵画、木彫、写真、園芸、洋裁
Ⅷ 趣味・娯楽		囲碁、将棋、手品
Ⅸ 料理		

3 諸室の概要

幕張コミュニティセンターで調査対象の室について施設管理者へのヒアリング調査で得た情報を元に、室名称、規模、設え、収納スペース、履き替えの有無と利用行為についてまとめたものを表2に示す。

4 事前調査アンケートの作成

4.1 事前調査アンケートの概要

アンケートは平成27年10月の4日間サークル利用者に直接アンケートを依頼する。はじめに、利用者に利用諸室と活動内容について記入を

Extraction of satisfaction evaluation item related to the multi-functional
Hirokazu FURUTA, Teruki YAMAGISHI and Naoyuki HIROTA

求め、続いて多項目選択式で、利用者に活動を行うにあたって不都合だと思うことについて印をつけることを依頼する。項目に該当しない不満については記述欄を設け、自由に記述を依頼する。たアンケートの設問項目を表3に示す。

表 2.諸室の概要

室名	規模 (㎡)	設え	付属室及び、収納スペース面積 (㎡)	履き替え	利用行為
講習室1	68.4	黒板・椅子・机(移動可能)	なし	なし	[エクササイズ] [育児支援] [学習][会議] [音楽] [舞踏] [美術・工芸-水] [美術・工芸-その他]
講習室2	50.8	黒板・椅子・机(移動可能)			
集会室2	50.8	黒板・椅子・机(移動可能)	なし	なし	
集会室1	157	椅子・机(移動可能)	なし	なし	[軽スポーツ] [エクササイズ] [育児支援] [演奏][舞踏]
和室	77.6	畳・座椅子・座布団・水屋	1.6	あり	[エクササイズ] [音楽][舞踏] [育児支援] [発表][演奏] [趣味・娯楽]
創作室	94.8	工作机・水場・ピアノ	なし	なし	[育児支援] [音楽][舞踏] [美術・工芸]
料理実習室	53.2	調理器具	なし	なし	[美術・工芸-水] [料理][趣味・娯楽]
ホール	216.8	カーペット敷き・ステージ・楽器を収納	6	なし	[エクササイズ] [育児支援] [発表][演奏] [舞踏]

表 3.設問項目の概要

設問項目	
部屋の広さの問題	防音の問題
明るさの問題	床仕上げの問題
火器使用の問題	備品収納の問題
水道使用の問題	

5. アンケートの結果と分析

行為ごとの結果を図1-図5に示す。
本稿では複数の部屋にみられた利用行為について分析することとし、[エクササイズ][育児支援][演奏][歌唱][舞踏]の結果について考察する。

5.1 エクササイズのアンケート結果と考察

図 1 に [エクササイズ] のアンケート結果を示す。[エクササイズ]は集会室と和室でアンケートの回答が得られている。

集会室では《明るさ》と《収納》において全員が不満と答えている。また、和室では《防音》への不満が 40%を超えており、《収納》に関して約 10%の人が不満と答えている。《収納》は和室に 1.6㎡あり、集会室では設置されていないため、集会室での不満回答が高くなったと考えられる。

和室の《防音》は間仕切りによる仕切りのため周辺の音が入りやすく、ヨガを行う上で集中を阻害するとの不満が書かれている。

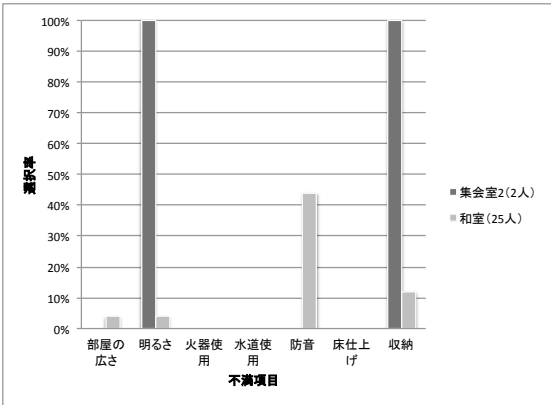


図 1.[エクササイズ]アンケートの結果

5.2 [育児支援] のアンケート結果と考察

図2に[育児支援]のアンケート結果を示す。
[育児支援] では、集会室と創作室において回答がみられ、育児活動や、リトミック※2、児童工作など行為が多岐に及ぶため《火器使用》を除いて、多くの不満項目の選択がみられている。

集会室では、《防音》が約30%の人に不満がみられ、その他《床仕上》で約20%、《部屋の広さ》で5%の人から不満の回答がみられている。次いで、[創作室]では《防音》が約50%、《水道使用》が約40%、《床仕上》が約30%、《収納》と《部屋の広さ》が10%の人から不満回答を得ている。《水道使用》では児童工作を行う上で不都合との回答がみられている。

《防音》では、調査から集会室、創作室何れも入り口の扉に換気用にスリッドが空いており、外からの騒音が入ってくるため《防音》に不満がみられると考えられる。《床仕上げ》では、子供が走ったり、寝転がったりするため、衛生や床の硬さに対する意見が見られた。

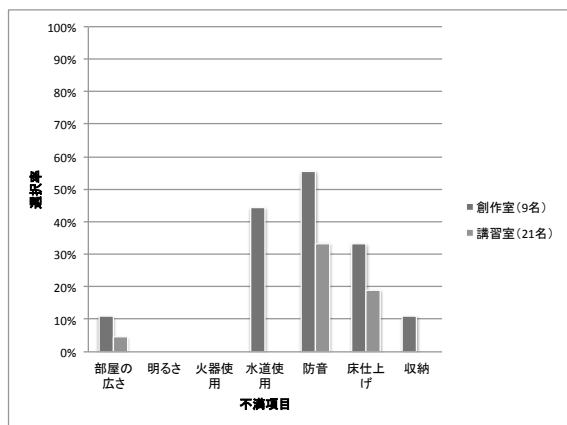


図 2.[育児支援]アンケートの結果

5.3 [演奏] のアンケート結果と考察

図3に[演奏]のアンケート結果を示す。[演奏]では集会室、ホールにおいてアンケートの回答が得られている。

集会室では《明るさ》約50%《防音》約40%その他に《床仕上》《収納》《部屋の広さ》が約10%の人から不満回答がみられる。《防音》は[育児活動]の考察で示すように換気のためのスリットから、音が入り演奏を阻害するため不満の割合が高いと考えられる。また、《床仕上》《収納》《部屋の広さ》において不満がみられている。ホールでは、集会室ほどではないが、《明るさ》《防音》共に不満回答が見られる。《明るさ》は演奏をする際楽譜を見るため不満として選択されやすいと考えられる。

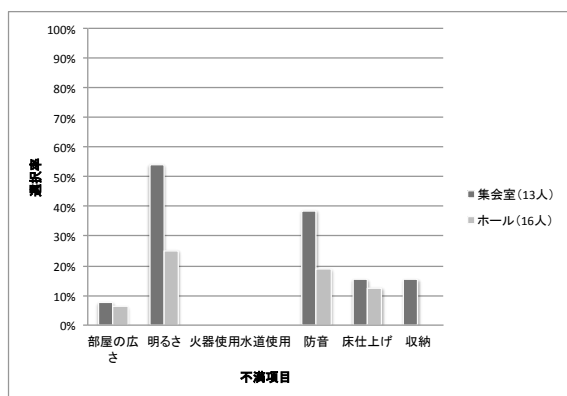


図 3.[演奏]アンケートの結果

5.4 [歌唱] のアンケート結果と考察

図 4 に[歌唱]のアンケート結果を示す。[歌唱]では、創作室と、講習室においてアンケートの回答が得られている。創作室では、《防音》が約 40%と不満回答が高く、次いで《床仕上》

《部屋の広さ》《明るさ》が 10%以下の不満回答となっている。

一方、講習室では《部屋の広さ》《明るさ》《防音》で約 30%の不満回答がみられており、次いで《床仕上》と《収納》が 15%程度の不満回答となっている。《空間の広さ》に関して、講習室は創作室の半分程度の面積であるため、不満の割合が高くなったと考えられる。《防音》は創作室、講習室何れも扉に換気のためのスリットから騒音が入り、歌唱を阻害するために不満回答が高いと考えられる。

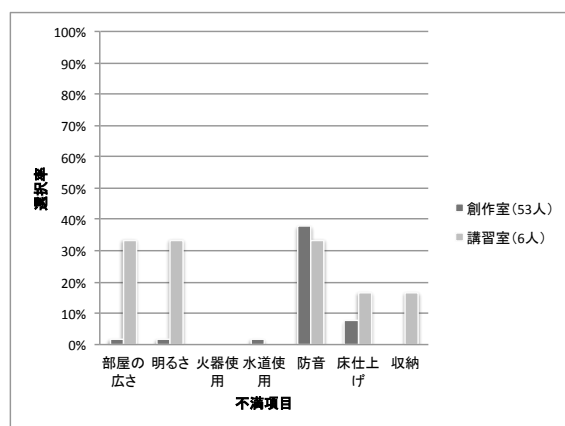


図 4.[歌唱]アンケートの結果

5.5 [舞踏] のアンケート結果と考察

図 5 に[舞踏]のアンケート結果を示す。[舞踏]では、ホール、集会室、和室でアンケートの回答が得られており、何れも比較的面積が大きい諸室である。

ホールでは《床仕上》で約 20%、《収納スペース》で約 10%の人が不満と答えており、それ以外の項目は 5%以下に収まっている。次いで、集会室では、《床仕上》に約 30%の人が不満と答えており、《部屋の広さ》の 5%以外不満はみられない。最後に和室では、《部屋の広さ》において約 30%の人が不満と答えており、次いで《明るさ》約 20%《防音》約 10%の人に不満がみられる。ホールと集会室では《床仕上》において不満がみられるが、和室ではみられない。理由として、和室で行われる舞踏は日本舞踊であり、畳との相性が良いためであると考えられる。一方で、《部屋の広さ》において和室でのみ不満がみられるが、三室の規模を比較すると和室はホールや創作室と

比べ半分程度の面積しかなく、身体を動かす舞踏において狭いため不満がみられると考えられる。しかし、規模に関しては、利用人数の問題で解決の可能性があるといえる。

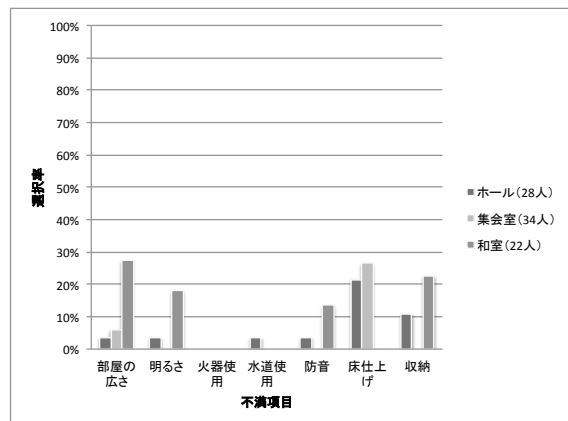


図5.[舞踏]アンケートの結果

以上より、何れの行為においても、扉の換気用スリットによる《防音》や《備品収納》に対する不満がみられる。

《備品収納》は複数の室で共用するスペースをつくることで、解決を図ることができると考えられる。しかし、《防音》の不満は自然換気のスリットによるもので、公共レベルの問題なのか検討しなければならない。

音を利用する[演奏][歌唱][舞踏]では、上記の項目以外に《空間の広さ》《明るさ》《床仕上げ》の項目において不満がみられている。

6. 自由記述欄の考察

行為ごとの自由記述回答について分析する。
[演奏]

集会室での利用において、30%以上の回答者が、机や椅子の重さから準備が大変であるとの不満がみられた。

[歌唱]

創作室での利用において、10%弱の回答者が、机や椅子の故障に不満をもっている。

[舞踏]

集会室での利用において、50%以上の回答者が柱や流し台等の障害物に関する不満をもっている。

以上のことから、[演奏][歌唱][舞踏]の行為において、机・椅子の重さによる不満がみら

れる。また、[舞踏]においては、部屋の設えや、柱が障害物となり行為を阻害することで、不満がみられる。

7. まとめ

本稿で明らかになったことについてまとめる。

1. アンケート結果の分析より、《空間の広さ》《明るさ》《水道使用》《防音》《床仕上げ》《収納》は、利用行為との関係がみられ、評価項目として有効だといえる。また、《火器使用》は火器を利用する利用行為がみられなかったため、不満回答が得られず評価項目として有効性が得られなかった。
2. 自由記述より、準備に関わる《机・椅子の重さ》や柱等の固定した《障害物》は、評価項目として有効だといえる。
3. 《規模》や《備品収納》への不満は、運営の方法次第で対応できる可能性がある。
4. 《防音》の不満で述べように、公共レベルの問題についての課題がみつかった。

[今後の課題]

1. 回答者数が少ないため、今後も調査を行い、回答数を増やし、より精査する必要がある。
2. アンケートが取れていない利用行為について、調査を行う必要がある。
3. 適切な公共レベルを見極める必要がある。

[注釈]

※1高橋潤『千葉市コミュニティ施設の空間特性と利用行為からみた「機能複合スペース」の要件』平成25年度日本大学生産工学部修士論文P20

※2音楽と動きを融合した音楽教育

[参考文献]

1. 高橋潤『千葉市コミュニティ施設の空間特性と利用行為からみた「機能複合スペース」の要件』平成25年度日本大学生産工学部修士論文
2. 浅野平八『地域集会施設の機能構造に関する研究』平成元年
3. 片桐隆博『千葉市コミュニティ施設における学習行為と空間の対応』平成25年度日本大学生産工学部修士論文